美濃戸

会報第 47 号　　2021 年　12 月発行
編集・発行　美濃戸高原別荘地連絡会
編集委員会
ホームページ　**http://www.minoto-jp.net**
事務局連絡先　加留部（Y-45）080-1086-4884

＜目次＞

会長あいさつ
お知らせ
◆世話人会活動報告
会員投稿
◆森の小さな家
NK-24 島津　貴代さん
◆こよなく愛す美濃戸高原　（特別寄稿）
T-22 小清水　琢磨さん
インフォメーション
◆会費の納入についてのご報告とお願い
◆緊急一斉メール対応について
◆御柱祭りと新型コロナ禍
◆高原野菜を作る会へのお誘い
◆美濃戸高原別荘地」活性化案、大募集！(再掲)
◆新ホームページ「美濃戸こもれびの森」（再掲）
◆「連絡会新規会員」をご紹介ください。(再掲)
◆「会員名義変更・退会のご連絡」のお願い　(再掲)
◆訃報
編集後記

会長あいさつ

美濃戸高原別荘地連絡会
会長　中村敏昭

2021 年（令和３年）も残すところあと僅かとなりましたが、会員の皆様に於かれましてはお元気にお過ごしのことと思います。新型コロナウィルス禍は発生以来２年目が過ぎますが、東京オリンピック開催前の第 5 波感染者急増に対応した緊急事態宣言も８月下旬以降の感染者減少で９月 30 日には解除され、その後も不思議なほどの感染者急減となりました。しかしながら、ウィルスが蔓延しやすい冬季になると第６波が起きる予想もされています。計画されているコロナワクチンの 3 回目接種や年少者への接種開始などが進んで、今後もぜひ健康に乗り切りたいところです。

①　「会社との管理費値上げ交渉推移」

蓼科観光株式会社（以下、会社）が、連絡会（以下、会）との合意がないままに管理費値上げを実施して来年 3 月末には丸 2 年になります。今年 4 月に私と小清水琢磨氏（現副会長）が松島社長を東京・杉並本社に訪ね、値上げ不当の理由を重ねて訴えた内容は 6 月の会報第 46 号（夏号）でご報告いたしました。当方の反対理由が良く理解できずに返答に窮する松島社長でしたが、その後の歩み寄りの動きは全くありません。別項でご報告します会社が表明している「水道施設大規模修繕工事の新提案」の提示を待って、管理費値上げ交渉と絡めた総合的な解決が見出せないかとも考えている状況です。管理費値上げ問題については幾度も会の正当な主張を会社に訴え済みであり、また、水道施設大規模修繕工事の新提案に対しては会社の動きを待つしかないことから、世話人会の協議では会として引き続き「静観する」ことを決定していますので、もう暫く時間をいただきたいと思います。

会員の皆様に向けては、2022 年（令和 4 年）1 月恒例の会社請求書に備えて、会主張の管理費支払い額（内容）を 12 月中旬に文書またはメールでお知らせ済みですので、その内容に沿った支払いのご協力方どうぞ宜しくお願いいたします。

②「今春、会社が表明した水道施設大規模修繕工事の新提案動き」

2017年秋に工事開始し、一部予定外工事が発生しつつも、ほぼ順調に進行している水道施設大規模修繕工事の工程に関して、今春松島社長から新たに「仮設工事」（※）という工事手段を加えることが打診されました。会では工事覚書に無い内容にあたるためお断りし、その経緯はこの夏の会報46号と8月の連絡会総会文書でご報告させていただきました。今春の交渉の際に、松島社長は「今秋には水道施設大規模修繕工事に関して新たな提案をしたい」と表明していましたが、世話人会の定例開催が10月までであるために、当方から8月下旬に提案事項を9月中旬には受け取りたい旨松島社長に打診いたしました。3日後帰ってきた返答は「コロナ禍の影響で関係諸方面と調整中だが申し出の日程に応えられない、大幅に遅れます」という呆れた返答でした。

会は即座に抗議書を送りました。骨子は4つで、

①松島社長の今春の申し出が、水道関連コンサルタントから指摘されたという諸々の問題点や提言を今後の施設更新投資にどう活かすかの考えと会が理解し、世話人有志が「仮設工事」に関する勉強会を工事業者から受けるまでしたのですがまたまた肩透かしに遭い、まったく虚しい思いに駆られたこと。

②時期の見通しも“大幅に遅れる”としか言わないことは、4月以降真剣な検討が全くされていなかったことに他ならず、停滞というよりむしろ全て白紙状態だったと考えられること。

③そして、会（地権者）としてはこれ以上の交渉継続は無意味であると判断し、当面双方の懸案事項は全て凍結し、会社から具体的且つ詳細な提案が提示されるまでは対応を停止すると9月5日の世話人会で決めた事項を伝えました。

④また加えて、2017年の水道施設大規模修繕工事地権者説明会において「今工事は仮設工事という工程を採用しない低めの工事予算である」という重要説明を全く怠った会社の責任と、いずれ提示される水道施設新工事新提案は仮設工事に要する費用を含め覚書合意を超える工事費は全て会社が負担する前提の内容でなければ、地権者は到底納得しかねることを申し添えました。

このような顛末になる前、工事進行を預かる管理人への事前聞き取りから、社長が何の検討指示も出していなかったことは掴んでいたのですが、この経営者の能力・行状は顧客である地権者の心情を平気で逆なでするものであり、糾弾する用語を10や20並べても言い切れないほど低レベルです。

松島社長からの返答は残念ながらありません。

（※　仮設工事　：　使用している水道の（旧）送・配水管を新たに新管に交換する工事の際に、工事に伴う給水の一定期間断水や、工事進行上に起こりえる管の破損事故による断水期間の延長を避けるため、バイパスとなる仮の給水管を設置しておく工事です。仮設工事を用いない工事費より25%ほど工事費が増加すると言われます）

③「美濃戸高原別荘地の魅力再生への働きかけ」

前項①の管理費問題、②の水道施設大規模修繕工事新提案の問題、加えて昨年から先送りされたままの経営合理化策の提示など、会が会社に構造的経営改革や改善を訴えている項目は盛りたくさんですが、唯一会社が今春にやっと手を打つ形になりましたのが、別荘地の不動産仲介・販売窓口を信州土地建物株式会社（丸山の森別荘地を管理もする地元不動産会社）と提携したことです。会が水面下で接触していた当社は丸山の森別荘地販売で大きな実績があり、提携後は早速ネット情報や顧客案内に注力し、昨年契約分も含めて8月現在11物件を成約に結びつけました。ここ数年売却数が増えていた美濃戸高原別荘地に新たな息吹を吹き込むことがスタートし、会社にとっても地代・管理費・水道料・水道施設大規模修繕工事費積立金の各収入で得られた増収は大きなものになるはずです。

別荘地の衰退が長く呟かれる中で、奇しくもコロナ禍で見直されたリモートワークや地方移住トレンドは、近年にない需要拡大とマスコミでも取り上げられています。

美濃戸には恵まれた自然環境と交通アクセスの他、周辺には観光・生活・医療施設も充実しています。昨年は会のホームページリニューアルを進めましたが、将来の需要層発掘をより積極的に進めるため、各種の取り組みと啓蒙を進めていく所存です。

また、環境・道路整備に日々努力してくれている管理人皆さんとの情報交換には力を注ぎ、一層魅力が増す美濃戸高原別荘地にしていきたく思います。

④「緊急時一斉メール（会社発信）への対応について」

緊急事態が発生した場合の地権者へのメール配信が会社によって取り組まれていますが、会員の方々で未だ登録されていなく、且つメールアドレスの登録を拒まずオープンにできる方は、年始に送られる会社からの書類ご案内に沿ってご対応ください。詳細は今会報「インフォメーション」欄をご覧ください。

お知らせ

◆ 第 25 期後期　世話人会活動報告

事務局長　加留部則彦 (Y-45)

A. 新型コロナウイルスの猛威は第 5 波をピークに減少に転じ、同時に 2 回のワクチン接種も順調に進み感染は激減してきました。その中で世話人会は 7 月度をネット会議とし、8 月の総会は文書送付による議案審議とさせていただきました。9 月度および 10 月度は事務局長宅で会議を開催し熱心な討議を実施しました。

議題は

① 一向に進まない管理費値上げ問題

② 新たに発生した大規模水道修繕工事における仮設工事の扱い（7 月に現地管理事務所にて役員、事務局員出席で担当設備会社による勉強会実施）

③ 会社による緊急時一斉メール連絡の在り方（特に断水の場合はメールではなく当該地区住人への直接連絡希望）

などが中心となりました。詳細は会長挨拶文をご覧ください。

B. 対外活動としては

① 会長、新副会長、事務局長にて８月に新たに会社の販売窓口となった信州土地建物株式会社（丸山の森管理会社）へ訪問挨拶実施。

② 10 月に同じく会長、副会長、事務局長にて穴山財産区（美濃戸 A 地区）出身の長田市会議員を訪問し、2 年前美濃戸バス道路の補修工事について行政への働きかけをお願いし、結果令和 4 年度から工事に着手することが決定したことのお礼及びリゾート別荘地の構造的課題を説明し別荘地が衰退化の方向に向かわないよう行政や財産区の協力を得たい旨伝えました。取り敢えず穴山財産区幹部の紹介をお願いしたところ了承の返事を頂き、時期未定であるが事務局長宛返事をするとのことでした。

C. 今後の活動として、総会議案審議ハガキで頂いたご意見にありました「連絡会」の名称変更、「枯れ木感謝祭」の名称変更及び内容の見直し検討をしてまいります。

会員投稿

◆ 森の小さな家

NK-24 島津　貴代

美濃戸に魅せられて小さな家を建ててから 25 年たちました。

家ができた１年後に生まれた娘は、生後１ヶ月の時に初めて美濃戸に来てから美濃戸の方々と自然に育てていただき成人しました。

幼い娘といつも一緒に散歩してくださった方とその方の愛犬、魚釣りを教えてくれた方、（娘は師匠と呼んでいます）、お宅の前を通ると名前を呼んで手を振ってくれた方、小さな娘が抱えるのが大変なほどの野菜をくださった方等、沢山の方の温かさに囲まれて育つことができたことは娘にとってとても幸せなことだと思っています。

娘が中学生になるまで、私と娘は１年の約３分の１を美濃戸ですごしました。

娘が幼い頃、彼女はしゃぼん玉が大好きで、毎日しゃぼん玉を追いかけて遊んでいました。また、庭の石に絵をかいておままごとをしたりお店屋さんごっこをしたりと庭にいるだけで楽しそうでした。

少し大きくなると、虫網や魚をすくう網を持って別荘地中を遊び場にしていました。当時の美濃戸池には既にブルーギルもいましたが、ハヤが群をなして泳ぎ回り、鯉の子供やドジョウなどもいました。また、ミズカマキリ等の水生昆虫もいて毎日遊んでも飽きることはありませんでした。小魚をすくったり、釣りをしたり、罠を仕掛けたり、遊びは無限にありました。捕まえた魚をバケツに入れ、フウフウ言いながら坂を登り家まで持ち帰り、庭で飼ったりもしました。大抵はしばらく飼った後美濃戸池に帰しましたが、ドジョウだけは「ドジョ吉」と名づけ、天寿を全うするまで大切に飼いました。

虫も大好きなので、美濃戸池ではじめてオニヤンマを捕まえたときはとても嬉しそうでした。絵を描いた後放しました。オニヤンマが威厳のある姿で飛び去って行った事を、私は今もおぼえています。ギンヤンマや比較的捕まえやすいカトリヤンマも美濃戸池で捕まえました。虫は飼わずに捕まえてもしばらく見たら放していましたが、唯一の例外がいました。それは、４月の寒い日に庭で見つけた２ミリ位のバッタの子です。「このままでは凍死しちゃう」とバッタの子を保護し「バッタン」と名づけました。「バッタン」は脱皮を繰り返し立派な「ハタケノウマオイ」に成長し、12 月に亡くなるまでよく鳴いて癒してくれました。

ある年の夏は、庭に秘密基地を作ろうと企画し、設計図を書き毎日せっせと穴を掘っていました。残念ながら秘密基地は完成しないまま夏が終わってしまい、秘密基地計画は頓挫してしまいました。後日その穴に私が落ちて痛い思いをしたため埋めてしまいました

美濃戸にいると楽しそうに山に登る方々を目にする機会が多いので、歩けるようになると山歩きをしたがるようになりました。幼稚園に入るころには八ヶ岳に登り始め、５歳で硫黄岳、横岳、赤岳を縦走しました。その後も色々なコースを縦走しました。小さな登山靴とリュックは捨てることができない思い出の品です。家から歩いて登山できるなんてなんて恵まれているのでしょう。早起きすれば赤岳に日帰りで登れますし、行者小屋と赤岳鉱泉をめぐるのんびり登山も景色もよく楽しいです。個人差があるとは思いますが、所要時間は６時間位です。また、初夏には御小屋山にシャクナゲが咲きます。少し登るだけで沢山のシャクナゲを見ることができます。この登山道は登山者が少なく静かです。こちらの所要時間は３時間弱です。また、御小屋山山頂から少し足をのばし不動清水まで行くと所要時間は４時間位です。不動清水には小さなお不動様が祀られおり、近くには清水が湧いています。このコースは私のお気に入りの散歩コースです。足場はあまり良くないので登山靴は必須です。

東京育ちで「田舎」の無い私にとって美濃戸での暮らしはとても新鮮でしたし、豊かな自然の中での子育ては、当時は夢中でしたが、今思いかえすととても楽しく思い出深いものでした。

娘にとっても、幼い頃の美濃戸での体験は大切な思い出になっていることでしょう。

今娘は成人し、私は 2 頭の犬と美濃戸に来ることが多くなり、犬たちとの散歩や農作業を楽しんでいます。野菜だけはほぼ自給自足の暮らしです。以前のにぎやかさはありませんが穏やかな時を楽しんでします。散歩の途中などに先輩方から山野草の事、庭作りのこと等を教えていただき、少しずつ庭の手入れをしています。これからは木工やステンドグラス作りにも挑戦してみたいと思っています。

この美濃戸の美しさがどうかいつまでも続きますようにと願っています

◆ こよなく愛す美濃戸高原（特別寄稿）

T-22　小清水　琢磨
（連絡会副会長）

世話人の一員であった私が、今年夏の総会で推され中村会長を補佐する副会長に就任いたしました。ご挨拶傍々、美濃戸にまつわる想い出や所感、更には蓼科観光さんに対する働きかけなど、会報第 46 号の中村会長ご挨拶の内容と一部重なる部分もありますが、述べさせていただきます。

<美濃戸の魅力、愛着の原点>

昭和 37 年（1962 年）に会社員生活をスタート、高度成長期を無我夢中で走っていた三十歳台半ばだったと思いますが、ある秋に全国紙に出た美濃戸別荘地の広告が目に止まりました。遠い昔に中学の林間学校で滞在した蓼科、当時は茅野駅から大半砂利道の辺鄙な山奥でしたが、親湯温泉での楽しい合宿やトレッキングの想い出が懐かしく蘇り、小学生の二人の息子達を連れて現地視察に来たのは文化の日のことでした。その日の美濃戸は紺青の空にカラマツの金色吹雪が舞う最高の秋晴れで、輝く錦秋の八ヶ岳山麓を見てこれぞ神々の座し給う桃源郷とすっかり惚れ込み、沢山の候補物件の中から比較的平坦で白樺やヤマツツジが沢山自生する更地の所有権物件を前所有者から即決で購入したのでした。

それは確か昭和 50 年か 51 年でしたから、開発がスタートして 3、4 年しか経ってなかった筈です。中堅の不動産仲介業者と蓼科観光がタイアップし、会社保有物件に投資目的などで複数区画を所有していたオーナーの転売希望物件を加えて総数 30 か 40 区画、二週間ぐらい大々的な販売キャンペーンを企画し大いに賑わっていましたね。今年の春に信州土地建物の伊東社長とお会いした際にも勧めたのですが、現在でも蓼科観光の保有区画と、後継者難などで転売希望されるオーナーの物件を合わせれば優に 70、80 とある筈ですから、ネットで大々的な宣伝をして昔のように大規模な即売キャンペーンを張れば、コロナ以降の地方移住志向もあって、オーナーの若返りや別荘地全体の活性化に絶対役立つと信じています。販売促進に伴う売上増に加え、地代・管理費収入も飛躍的に増加し蓼科観光の経営基盤も大いに強化されるのになぜやらないのか、歯痒いぐらいです。

購入した頃の話に戻りますが、買ったはいいが当時は社宅住まいから脱し自宅を建てる先決課題に汲々としており、とても別荘建築など考える余裕などありません。その頃は中央自動車道の甲府盆地勝沼 IC～甲府昭和 IC 間は未完成でしたから都内から３～４時間かかり、ハイシーズンには大渋滞で、しばしば精進湖⇒御殿場⇒東名高速の迂回を余儀なくされるなど交通面のネックもありました。それやこれやで草ぼうぼうの更地で放置しているうちに二度目の海外勤務（西独）で５年近く経ち、結局帰国して企画や設計で散々楽しんだあとの昭和 62 年（1987 年）晩秋にログハウスを建てた時には 48 歳になっていました。カラマツと樅ノ木の違いはありますが、ドイツの「黒い森」と雰囲気がよく似た春も

気に入り、同じ印象・動機から他に三人ほどドイツ時代の上司や同僚が美濃戸・丸山に別荘を建て、今でも飲み会やゴルフを楽しんでいます。という次第で地権者歴は古株の部類ですが、現役時代は数日間の夏休み滞在と正月休み、それに春の勿忘草とズミの花、秋の実りの稲田と紅葉を愛でる週末のみ神風滞在の典型的な働き蜂別荘族でしたので、連絡会活動や定住されている皆さまとの交流の機会は全くなかったのが少し残念ではあります。別の言い方をすれば購入してから40年近く、蓼科観光の初代社長時代には春先の荒れた道路ぐらいしか文句は無く、砂利代を含めた管理費も安いし水道代も意識する必要ない額でしたので、管理会社の経営不安とか将来展望の評価など殆ど気にしたことがありませんでした。

その後幾星霜、成長した息子達は忙しくて滅多に美濃戸往来の機会がありませんでしたが、孫娘や甥姪達を毎年、毎季節ごとに連れてきては、自然文化園で思う存分遊んだあとの上里牧場の焼肉、リゾナーレの大波プールで朝から晩まで過ごして近隣の温泉に浸かるなど、今では子供もいる甥姪からも本当に楽しい想い出を沢山作れたと感謝されています。安曇野など奥信州への基地としても役立ち、美濃戸は日常を忘れる貴重なオアシスでした。

＜連絡会活動、蓼科観光との対話に参画した契機＞

管理会社のことなどあまり意識せず、従って連絡会に入った時期も定かでないノンポリ会員であった私が、中村会長の知遇を得て連絡会活動や会社（松島社長）との対話などに目を向けた契機は何だったのでしょうか。　まず、水道大規模修繕覚書締結により年間 25,000 円＋tax　の積立金を積むことになった時も、半世紀近く経つ老朽設備では仕方ないな・・と気にもしませんでした。それが管理費 60％アップ要求に遭ったことで『あれ、この会社は自分の怠慢もあって20年以上据え置いた落度は棚に上げてこの値上げ率とは随分常識ない会社だな。それも近隣の同じような別荘地の管理費と同じか安いならともかく、丸山より１万円以上高く取ろうなんて正気なのか』と初めてムカついた次第です。これだけ値上げしなければ経営ができないと聞き、令和２年正月明けに蓼科観光の直近５年間ほどの決算財務諸表を管理事務所で閲覧して驚きました。年々借地返上などで地権者数が減少する一方なのに新規物件の販売努力は自社では全くやっていない、宅建資格所持者が現地にも本社（営業）にも一人もおらず、全てにじり貧状態なのに経営陣は手を拱いている状況がありありと窺えたのです。売上が毎年 4,000 万円そこそこで、この 5 年間社有地等の新規販売売上があった形跡はなく毎年わずかの仲介手数料をオーナーの転売成立で得ただけなのに、人件費や一般管理費が毎年4000万円弱もありました。その上に地権者が支払う地代から類推して、マスターリース地代を少なくとも年間１千万円以上納める筈ですから、年々600～700 万円の営業損失を計上し続け、平成 31 年 3 月末時点で資本金が 1 割以上損耗した状態に陥っていました。その一方で水道使用の理論的日量とほぼ同量の漏水が毎日別荘地のどこかで発生しているのに有効な探査の手も打っていない。このままでは数年で債務超過となることが目に見えるのに管理費60％アップ要求の他は無為無策の趣、倒産でもされたら我々地権者は地獄の苦しみを視ることになると愕然とし、昨年春先になって初めて強い危機感を抱いたわけです。その 3 月に中村会長が松島社長と面談された機に私も古い地権者の一人として同席、社長がどこまで現実の危機を認識しておられるのか、また、会社再建策、別荘地再興、漏水対策はどうしているかと首を突っ込んだことが、連絡会活動の本格的スタートでした。

私の持論ですが、我が国の別荘発達を歴史的に分類するとすれば

① 箱根・軽井沢等、戦前の上流階級の避暑・社交場としてのブランド別荘地
② 昭和 40～50 年代以降の高度成長期の別荘ブームによる各地の開発
③ バブル崩壊後の平成、デフレ時代に入り「所有する別荘」から「利用するもの」への意識変化に伴う、会員制高級リゾートクラブ、海外の別荘シェア等

の三つの類型に分けられると考えています。このうちで現在でもステータスシンボル的存在である①の物件はそれなりの資産価値を維持していますが、高度成長期に続々誕生した②ジャンルの別荘地が、開発から半世紀を経た今日、交通利便やインフラの優劣で差はあるものの、一様に以下の構造的要因で衰退の危機に直面しているとみています。美濃戸もまさに②の典型で、開発から 50 年経過しておりますから例外ではないと思います。

構造的な衰退要因、或いは早急に対策を講ずる必要ある課題として挙げられるものは；

・自然環境面の劣化（Natural fatigue）
景観、林相の悪化、倒木等の危険増大
・インフラ経年劣化（Infrastructure aging & fatigue）
道路、建築物、水道施設等全般
・世代交代の問題（Generation fatigue）
オーナー老齢化、後継者難、建物維持困難化
・経済状況、別荘市場低迷、余暇利用文化の変化（Social problems）

が代表的であろうと思います。首都圏から 2 時間余のアクセスを誇る美濃戸は比較的恵まれていますが、茅野市の北の長和町など佐久・北信では深刻な地域過疎化に加えて上述の要因で半世紀を経た老舗別荘地の衰退が進み、居住者・利用者の減少が更に衰微に拍車をかける悪循環に悩んでいます。町民人口僅か 5,600 人の町が、大半が町営の別荘地 2,000 ヘクタール近く（5,700 区画以上）保有する長和町では、別荘地の盛衰は町の死命を制する大問題と捉え、二年前からコンサルを雇って情勢分析と抜本的な別荘再興マスタープランを作成、最悪の事態となる前に何か手が打てないかと苦闘しています。長和町のプラン全容を松島社長にも手交し、ここに至った彼らの歴史を他山の石とし美濃戸でも先手を打ってじり貧防止の施策に着手するよう強く要請しました。先ずは環境・景観を整え、卓抜した自然環境、交通利便性などをセールスポイントに、遊休空き地や転売却希望の高齢者所有物件等の大々的な販売促進が美濃戸再生に極めて効果的な策であるとの我々の主張に社長も異議は唱えませんでした。最近は都会脱出志向の高まりを背景にした地元業者の仲介販売も活発化していますから、コロナ収束とともに活性化に転ずるものと期待しましょう。

インフォメーション

◆会費の納入についてのご報告とお願い

会計担当　安藤晋二

1．ご報告

2021 年度の会費納入率は 2021 年 10 月 31 日付け会員数 226 名中納付者 187 名、**納付率 82.7%**で前年度より若干（前年 10 月末時点 81.1%）改善いたしました。皆様のご協力にお礼申し上げます。今後とも納付率の向上にご協力をお願いいたします。

2．お願い

① 会費の納入期限

会費の納入は例年 7 月に総会資料と一緒に支払い票をお送りし、**10 月 31 日期限での納入**をお願いしています。ぜひ期限の日までに会費を納入ただきますようお願いいたします。未納の方につきましてはこの会報と同時にご連絡さしあげますので**遅くとも年度末まで**

には会費の納入をお願いいたします。

② 会費の前納と二重納付

会費の前納と二重納付はお陰様で改善されました。会費はその年度分だけを振込みし、かつ二重に振込まないよう今後もご留意頂きますようご協力お願いいたします。

③ 別荘地番の記入

会費の納入にはお名前と**別荘地番のご記入**をお願いしておりますがまだ別荘地番のご記入のない方が多くいらっしゃいます。入金管理の都合上必ずご記入下さい。通帳からＡＴＭで振込む場合でも、「**名前変更を選択**」いただいてお名前の後に別荘地番、例えば「アンドウシンジNK－７１」と入れていただければ地番がわかります。正確な入金確認のためにご協力いただきますようお願い申し上げます。

◆緊急時一斉メール対応について

現在、停電や断水等の緊急時に蓼科観光㈱からメールで連絡を受け取っている方も多いと思いますが、今年 9 月に断水が発生した際に、メールアドレスを登録していたにも関わらず、受信していたことに気付かずに、蛇口をひねったら水が出なかった、という方もいらっしゃいました。たまたま携帯電話またはパソコンが手元に無かったためお知らせのメールに気が付かなかったことが原因でした。

会社からの緊急時の連絡は登録されたアドレスに一斉メールで通知されることになっています。

停電や断水は別荘地のことなので登録アドレスは別荘滞在中に緊急連絡が受信できるものを各自お考えになって登録されることが望ましいです。

会員の皆様におかれましてはこのことをご認識頂いて対応されるようご留意ください。

まだメールアドレスを登録されていない方・アドレスが変更になっている方は、会社にご連絡いただくようお勧めします。

◆　御柱祭りと新型コロナ禍

Y-45　加留部則彦

2022 年は御柱祭開催の年です。新型コロナ感染はかなり収まってきたものの第 6 波が懸念されている中でどうなるかと思っていたところ 11 月 16 日に上社下社の大総代から対応のガイドラインが出されました。ガイドラインによると基本的には実施の方向ですが曳行、お祭りの見せ場である木落しや川越し、最終の建御柱はかなり制限されるだけでなく諏訪地域以外の観覧者は参加できない可能性も出てきました。1200 年も続く諏訪大社最大の神事は最大のピンチに見舞われています。取り敢えず発表された日程は以下の通りです。

山出し	上社	４月２日（土）～　４日（日）
	下社	４月８日（金）～10 日（日）
里曳き	上社	５月３日（火）～５日（木）
	下社	５月 14 日（土）～16 日（月）

御柱祭は数え７年目毎、寅と申の歳に行われます。正式名称は「式年造営**御柱**大祭」といい宝殿の造り替え、また社殿の四隅に「**御柱**」と呼ばれる樹齢 200 年程の樅（もみ）の巨木を曳建てる諏訪大社では最大の神事です。

御柱祭は三大御柱（出雲の大黒柱、伊勢の心の御柱、諏訪の御柱）の一つであり、日本三大奇祭（なまはげ紫灯祭り、吉田の火祭り、諏訪の御柱祭）の一つとして全国的に有名です。お祭りは全国から 30 万人もの観光客で賑わいます。

今回の御柱（諏訪大社上社奉納）は 30 年振りに我が美濃戸別荘地の上部の御小屋山から伐り出されました。元々は御小屋山から伐り出されていましたが伊勢湾台風の影響で樅の大木が減少し 1992 年の伐り出しを最後に 30 年を経て漸く本来の姿に戻りました。私が美濃戸に来たのが 2002 年でしたから 2004 年、2010 年、2016 年そして今回 2022 年の 4 回目の参加になる筈

でした。お祭りが大好きな妻は御柱祭の地元の美濃戸に定住することが出来てこんな幸せなことは無いといつも言っていますが本当に残念です。御柱祭には朝家を出て帰りはいつも夜、どっぷり浸ります。2016 年の御柱祭は諏訪の法被を着て参加しました。御柱祭は接待係の家が何件か決められ大ご馳走にお酒で大賑わいになります。私たちは縁があって 3 回ともそのお宅に入り大ご馳走を楽しませていただきました。2022 年はどうなるか今からわくわくしていますが望み薄ですね。

御柱は 10 月中旬に伐り出され、下旬に八ヶ岳農業実践大学校の仮置き場に安置され 2022 年 4 月の山出しまでここにとどまります。

◆高原野菜を作る会へのお誘い

美濃戸高原別荘地のメンバー限定で、エコーライン沿いの畑を2反お借りして、ただいま14軒で高原野菜を楽しく作っています。八ヶ岳、車山、甲斐駒を眺めながらキュウリ、トマト、ナス、ダイコン、ニンジン、カボチャ、ジャガイモはもちろんのこと、ズッキーニ、ホウレンソウ、ゴボウ、タマネギ、ニンニク、野沢菜、小松菜、インゲン、エンドウ、枝豆、花豆、さらにはトウモロコシ、シマウリ、キャベツ、白菜、そして自然薯や蒟蒻芋に落花生まで（ざっと会員の皆さんの実績です）作る野菜は自由。無農薬なので虫や雑草と戦いながらの野菜作りですが、収穫する野菜の味は抜群です！区画に空きがありますので、ぜひご参加ください。

・区画は25坪あるいは50坪
・会費は1,200円（25坪）2,400円（50坪）
・夏の終わりに、作った野菜の料理を持ち寄る〝収穫祭〟を行ないます。
・農家からお借りしているので、突然終わりになるかもしれませんがご了承ください。
・そのほか詳しい会則は面談にて。

あなたの森の中の別荘ライフに、畑の楽しみを加えませんか？

お申込み、お問合せは、2022年度当番係:
K-40小田（090-9543-8215）
Y-16平林（090-5342-7677）まで。

◆「美濃戸高原別荘地」活性化案、大募集！
（再掲）

新型コロナウイルス流行をきっかけに、自然環境に恵まれた地方に別荘やワーケーションで長期滞在したり、移住したりする方が増えています。この美濃戸高原別荘地でも、今後利用される方が増えることが期待されます。

そこで、この美濃戸の良さを伸ばすとともに新しい魅力を発揮できるアイディアを大募集します。会社にして欲しいこと、住民が協力してできること、ちょっとした思いつきや夢のような話でも構いません。**ホームページの「お問合せ・ご意見メール」にご記入・送信してください。お名前を出したくないかたは、ハンドルネームで「掲示板こもれびの森ひろば」に投稿していただいても OK です。また、手紙や葉書で以下の事務局宛てお送りいただいても結構です。**

〒391-0011 茅野市玉川 11395-18 NK-70
美濃戸高原別荘地連絡会事務局 安藤晋二 宛

美濃戸ライフを、より大勢の方に、より長く、より楽しんでいただけるように、みなさまのお知恵をお貸しください！

◆新ホームページ「八ヶ岳　美濃戸こもれびの森」（再掲）

昨年８月にスタートした「八ヶ岳　美濃戸こもれびの森」（minoto-jp.net）はご覧いただいていますでしょうか。以下のようなページ構成です。是非ご活用ください。（詳細は前号の記事をご覧ください。）

トップページ「今日のお天気」
（福井さんの気温解説も）
「会員専用ページ」
（報告事項、議事録など）このページに入るには事前に「メンバー登録」が必要です。
「掲示板こもれびの森ひろば」
（美濃戸高原や周辺の情報や感想など、どなたでも気軽に記入していただけます。）
「フォトギャラリー」
（皆さまの投稿による美濃戸高原や周辺の写真を掲載）皆さまの投稿をお待ちしております。

◆「連絡会新規会員」をご紹介ください。（再掲）

最近、新たに美濃戸高原別荘地の仲間となられた方々をお見かけします。現・連絡会会員の皆様の声に加え、新たにこの自然あふれる憩いの地を求めて来られた方々からも貴重なご意見をいただき、より良い別荘地の環境づくりに役立てたいと考えます。お近くに新たな同好の志を見かけられましたら、是非連絡会のご紹介と入会資料お届けのお誘いをお願いいたします。

事務局やお近くの世話人にお声掛けいただくか、下記 E-mail でお知らせください。資料等を早速ご手配いたします。

◆「会員名義変更・退会のご連絡」のお願い
（再掲）

日頃は連絡会の活動へのご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。諸般のご事情により**名義変更または退会**される場合は、お手数ですが**メールか電話で事務局宛にご連絡**ください。名義変更の場合は「名義変更届」をメールまたは郵送させていただきますので、ご返信・ご返送ください。連絡会を円滑に運営していくために、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

美濃戸高原別荘地　連絡会事務局
TEL ： 080-1086-4884（加留部）
E-mail ： contact@minoto-jp.net

◆　訃報

元会長の高城三男さん（NK24）が、かねて病気療養中のところ、」本年３月にお亡くなりになられました。

高城さんは連絡会発足時発起人のお一人で会長、副会長、事務局長を歴任され、会の発展にご尽力されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

皆さまからの貴重な原稿や写真が集まり、編集を始めるころ初雪が舞い、粉砂糖を振りかけたような景色となりました。今年はいつまでも暖かく、紅葉・黄葉も今一つかなあと思っていたら、なかなかどうして、11月の初旬から中旬にかけて周辺の大見山や富士見高原を訪ね、もみじ狩りを堪能しました。美濃戸も高木を伐採した周辺は日当たりが変わり、新たな秋色を楽しませてくれました。管理人さんのご努力で事務所前にできた庭のドウダンツツジの紅葉も見事でした。美濃戸池の周囲も整備され、会員の藤田さんお手製のベンチが4つ寄贈、設置されました。

日本では急速に罹患者を減らしているコロナですが、諸外国の様子を見聞するに、楽観にはまだなかなかの道のりがあるように思えてなりません。どうぞ皆さまお元気でよいお年をお迎えください。また雪道で、新緑の下でお目にかかれる日を楽しみに。

（会報内の各写真は、HP の「フォトギャラリー」にご投稿いただいたものなどを転載させていただきました。お礼申し上げます。）

（NK-1 野々村）